国語（中１）

1　通過率

(1) 全体

平均通過率（％）			対前年度比
平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	
６５．２	７２．３	７２．９	＋０．６

○　昨年度と比べて若干高い結果であった。平成１８年度に比較的通過率の低かった「説明的な文章」や「記述・推敲」の通過率が向上したことによると考えられる。
○　これまで，中学校第１学年の通過率が最も低い年度が続いていたが，１８年度から目標通過率の７割を超えている。小学校から中学校への接続時の指導に確実な改善が図られてきたと言える。

(2) 内容・領域

	平均通過率（％）			対前年度比
	平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	
聞き取り	８０．３	８２．６	８９．２	＋　６．６
文学的文章	５８．３	７１．７	５９．３	－１２．４
説明的文章	６４．８	６０．６	７６．１	＋１５．５
記述・推敲	５６．２	６４．３	８１．５	＋１７．２
文法・語句	４９．０	７７．５	６４．３	－１３．２
漢　　字	８１．３	８０．２	７４．７	－　５．５

○「聞き取り」と「記述・推敲」については共に８割を超え，他内容・領域よりも高い通過率となった。
○　昨年度低い通過率であった「説明的文章」については，今回「図」を取り入れた設問も入れたが，前回より１５．５ポイント高い結果となり，改善がみられた。
○「文学的文章」の通過率が約６０％と内容領域別では最も低かった。人物の心情を読み取るための根拠となる言葉へ着目の仕方等，より一層，文章の確かな読みの力が求められる。

(3) 観点別

	平均通過率（％）			対前年度比
	平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	
話す・聞くこと	８０．３	８２．６	８９．２	＋　６．６
書くこと	５６．２	６４．３	８１．５	＋１７．２
読むこと	６１．５	６６．２	６８．５	＋　２．３
言語事項	７２．０	７８．１	７０．７	－　７．４

○　「書くこと」の通過率が，今回初めて各観点の中で最も高い結果となった。これまで最も大きな課題であっただけに，改善の兆しがみられる。
○　「話す・聞くこと」の通過率も向上しているが，これは，１８年度まで毎年確実に８０％を超える通過率を維持しているものであり，基礎・基本が確実に定着していると言える。
○　「言語事項」については，今回約７ポイント低下した。高校入試と同一問題（漢字）の定着が図られていないことから，さらなる指導の工夫が求められる。

2　通過率が低い問題

①［4］一　漢字をひらがなに，ひらがなを漢字に直して書く問題
　・友達に本をかす（貸す）　（６３．８％）
　・こつこつとちょきんする（貯金）　（４７．２％）
②［4］二３　適した慣用句を選び出す問題
　・彼の自分勝手な行動はあまりにも(目)にあまる。
　（ア目　イ腹　ウ身　エ手）　（３９．３％）
③［4］三２　文の成分について「主語・述語・修飾語・接続語」から選ぶ問題
　（修飾語を解答とする問題）　（４２．８％）

3　特に定着を図りたい問題

①［3］四　説明的文章で，文中の指示語の示すものを指定字数で答える問題
　（H18　７８．３％　→　H19　８５．９％）
②［4］二２　「未・無・不・非」から当てはまるものを選ぶ問題（非常識→無関心）
　（H18　９０．４％　→　H19　８２．５％）

【通過率が低い問題①②】

4一　漢字をひらがなに，ひらがなを漢字に直して書く問題 ・友達に本を<u>かす</u>（貸す） （通過率６３．８％） ・こつこつと<u>ちょきん</u>する（貯金） （通過率４７．２％） （※中学校２年　通過率５１．４％）	4二３　適した慣用句を選び出す問題 ・彼の自分勝手な行動はあまりにも（目）にあまる。 （ア目　イ腹　ウ身　エ手） （通過率３９．３％）
4 次の各問に答えなさい。 一 次の各文の――線部の漢字はひらがなに、ひらがなは漢字に直して書け。 6 友達に本をかす。 8 こつこつとちょきんする。	二 次の1～3の文について、（　）の中のア～エのうち、最も適当なものを一つ選び、その記号を書け。 3 彼の自分勝手な行動はあまりにも（ア 目　イ 腹　ウ 身　エ 手）にあまる。

誤答傾向の分析

【漢字の問題】

○　「貸す」に対しては「借す」の誤答が多い。全国学力・学習状況調査では「借りる」の正答率も低かった。貯金については「貝」＋「寸」や「貝」＋「宇」等，大まかな形としてとらえての誤答が多かった。

【慣用句の問題】

○　誤答は，イ（手）ウ（身）イ（腹）がそれぞれに分散している。「○○にあまる」という言い方を日常耳にしていながらそれぞれの意味を考え適切な用法まで理解できていないことによるものと考える。

改善策

○　「貸す」にしても「借りる」にしても反対語や類義語のように，単語のみを扱って理解させるのでなく，例えば「貸し借り・貸しと借り・貸借（たいしゃく）」というように，セットとして扱い，使い分けができるような言語活動を設定する。また，辞書を活用する環境を整え，「貸し借りは他人」のような慣用句まで自ら調べる習慣を身に付けさせる。

○　辞書で「あまり」を引くと，「手に～」「目に～」「言葉に～」等の例が示されている。日常の具体的な場面でタイミングよく取り上げ，意識させるとともに，辞書を使ってさらに語彙を豊かにしていく指導が有効である。また，定着を図るために，国語科授業内だけでなく，家庭学習の内容例等に示す必要がある。

【通過率が低い問題③】

4 三２　文の成分について「主語・述語・修飾語・接続語」から選ぶ問題（修飾語を解答とする問題）

（通過率４２．８％）

三　次の１、２の文において、――線部の文の成分は何か。□の中から、最も適当なものを一つずつ選び、その記号を書け。

２　急いだので、店にかさを忘れてきた。

ア　主語　イ　述語　ウ　修飾語　エ　接続語

誤答傾向の分析

【修飾語の問題】

○　最も多かった誤答は，ウの「修飾語」であった。文頭にくる言葉であり，文字数が多いことから，これまで観念的に理解している修飾語と答えたものと考えられる。また，その他のア「主語」，イ「述語」の誤答もあり，接続語についての十分な定着が図られていないと考えられる。

改善策

○　まずは，小学校期に基本的な文の成文についての類別の理解を深められるようにしていきたい。特に，一つ一つの語句を使い分けられるようにするために，主語，述語になる語句，修飾語を大きく類別する活動を設定し，語句に対する理解を深めたい。

○　接続語については，基本的な「順接」「逆接」「並立・累加」「対比・選択」等の言葉と合わせて，文中では接続する語句と同じような働きをする「いっぽう，第一に，以上のことから，なぜなら，要するに」等の文頭にくる言葉をしっかり扱いたい。さらに，「何を→どうする」「何の→何」等，修飾・被修飾の関係を押さえ，修飾とは（係る文節が後にくる文節の意味内容を詳しく言い定めること）であることを明確にさせ，これらの違いが明確にできるような指導を試みたい。

○　また，今回の誤答を生かして，次の例のように修飾語は被修飾語の近くに置くことも常に意識させ，自らの書き言葉への効果も期待したい。

×悪い例・・・決してわたしは，そのような立派な人間ではありません。
○よい例・・・わたしは，決してそのような立派な人間ではありません。

【特に定着を図りたい問題①】

3　四　説明的文章で，指示語の示すものを指定字数で答える問題
（H18　78．3％　→　H19　85．9％）

3　次の文章を読んで，あとの各問に答えなさい。(1)～(8)は，形式段落の番号を表します。）

(1)　森林では，底部に落ち葉や枯れ枝が積み重なる。森にすむ動物たちのふんや死体もある。これらは，微生物によって次第に分解され，風化によって砕かれた岩石と混じり合って，黒い混った土になる。これを腐植土という。

(2)　腐植土は，上に積もった落ち葉の腐が水分の蒸発を防いで，いつも湿っている。水を吸ったスポンジのようになっていると思えばよい。スポンジに少し水分を含ませておいて上から水を垂らすと，水はスポンジにしみこんでいく。さらに垂らし続けると，やがてスポンジの下から水が流れ出す。同じように，湿った腐植土は雨水を地中に保ち，適量を地下水として流し続ける役割も果たしている。それで，森林は「緑のダム」ともよばれている。

(3)　腐植土がないと，こうした調整作用が失われ，雨は地表を流れ，直接河川に入る。これは，大洪水になったり渇水になったりと，河川の水量が著しく変動する要因になる。河川の生物が生きるためには，一定の水量が必要であるが，渇水になれば淡水魚や河川で産卵するサケなどの魚は生活できない。

(4)　［ア］森林がなくなり腐植土層が消失すると，その下の鉱物土層がむき出しになる。ここに大雨が降ると，大量の雨水と共に土砂が流れ出し，一気に海まで運ばれる。この影響を直接受けるのが，海底で生活する動植物である。ウニ，二枚貝などは土砂に埋もれて死んでしまう。土砂におおわれた岩場にはコンブやワカメは付着できない。沿岸の漁場や岩場に生える海藻に産卵することによって生存量が決められることになる。したがって，魚介類を増やすためには，そのいちばんもととなる植物プランクトンや海藻を増やさなければならない。それには，森林の腐植土から流れてくる物質が必要なのである。

(5)　そのうえ腐植土そのものには，海の生物を育てる大事な役割がある。腐植土の中には，岩石の風化や動植物の分解によってできた，窒素，リン，ケイ素などが含まれている。これらは，植物の生育に欠くことのできない栄養分のもとである。これらが腐植土から地下水にとけこんで川から海へと運ばれる。そして，沿岸付近で，海藻や植物プランクトンを育てる栄養となる。

(6)　海水中には，必要なほとんどの金属が水にとけた形で存在しているのだが，鉄だけは粒子となっている。粒子状の鉄を，生物は利用できない。［イ］腐植土の中で作られる有機物質と腐植土中の鉄が結合すると，水にとけるようになる。これが海（流れこむ）ことによって，海藻や植物プランクトンは鉄を取りこむことが可能になるのである。

(7)　実際に，函館湾に流入している久根別川河口で植物プランクトンの量を測定してみると，河川が影響する海域では，影響しない海域の五十倍から百倍高い数値が得られる。つまり，河川が運ぶ森林起源の物質が，沿岸部の植物プランクトンを育てているのである。植物プランクトンは，動物プランクトンや小魚のえさになり，小魚は大形魚のえさになる。アワビやウニは，コンブやワカメなどの海藻を食べる。こうしてみると，魚介類は，えさとなる植物プランクトンや海藻の量によって，生存量が決められることになる。

(8)　このように，海の生物は，森とたいへん強く結びついている。森が海の貝や魚を育てているともいえよう。

（松永勝彦「魚を育てる森」による）

四　本文中の段落(5)の「これら」とは何を指すか。本文中から十一字で抜き出して書け。（句読点を含む）

出題のねらい

○　「読むこと」の領域に関する問題として，身近な環境問題について述べた説明的文章に取り組ませることで，生徒のものの見方や考え方，段落相互の関係等について読解力や構成力をみることにした。本問題では，文脈の中における指示語の意味を正確にとらえ理解しているかを問うことにした。

学習の重点

○　説明文を指導する中で，指示代名詞の理解は読解において非常に重要でありながら，実際の授業の中で十分に扱っているとは言えない。そこで，次の４つの条件を確実に押さえたい。

1　指示語の内容は，その前の部分から指定された字数（今回は１１字）を探す

2　指示語の示している距離感をつかむ

距離が一番近いものが「これ」一番遠いのが「あれ」中間が「それ」となるので，指示語の種類で場所の見当をつける。

3　複数と単数を意識する（『単数』と『複数』）

指示語にも単数を示す指示語と複数を示す指示語がある。今回出題の「これら」や「それら」「あれら」は複数なので指すものは２つ以上あることを確認する。

4　文章の体言化を意識する

指示語の内容を問われたときは，普通「名詞」の形で答えることを押さえる。

【特に定着を図りたい問題②】

4 二 2 「未・無・不・非」から当てはまるものを選ぶ問題
（H18 90．4％ → H19 82．5％）
〔非常識〕 〔無関心〕

二 次の1～3の文について、（ ）の中のア～エのうち、最も適当なものを一つ選び、その記号を書け。

2 彼はその問題に（ア 未 イ 不 ウ 無 エ 非）関心をよそおう。

出題のねらい

○ 熟語に「打ち消し」の「未・不・無・非」から一語を加えて完成させる問題であり，多様な語句についての理解状況をみた。例年，類題を出し続けているため，確実な定着，使い分けを図りたい問題である。

学習の重点

○ どの熟語にはどの打ち消しの字が付くのか，日常のメディアや読書活動などを通して一つ一つ，その都度立ち止まって意味を考えさせていくことが大切である。例えば，「非公開（公開しない）」と「未公開（まだ公開していない）」など，意味が分かりやすいもの二つの字がつく熟語を例に出して，納得できる使い分けを身に付けさせたい。

○ 次のような言葉集めを言語活動として組み，楽しみながらそれぞれの特徴に気付かせていく指導を続けたい。

①「不」・・・「～しない」「～でない」
例「不安（安心しない）」「不満（満足でない）」「不足」「不便」「不明」

②「無」・・・「～が無い」「～ない」
例「無礼（礼儀を知らない）」「無類」「無実」「無敵」「無造作」「無意識」

③「非」・・・「～でない」「～が無い」
例「非常（普通でない）」「非常識」「非科学（的）」「非現実（的）」「非公開」

④「未」・・・「まだ～ない」
例「未熟（まだ熟してない）」「未完成」「未発表」「未成年」「未開発」

国語（中２）

1　通過率

(1) 全体

平均通過率（％）			対前年度比
平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	
７０．６	７０．９	８１．７	＋１０．８

○　これまでで最も高い８割を超える通過率となった。これまでの「基礎・基本」定着度調査を，繰り返し復習することで，概ね基礎・基本が定着してきていると考えられる。
○　今回まで，繰り返し，「グラフを読み取り，自分の考えとして整理して書く」設問を取り入れてきており，全国学力・学習状況調査とも類似する問題に対しては解答パターンに抵抗のなくなってきた好成果と考えられる。

(2) 内容・領域

	平均通過率（％）			対前年度比
	平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	
聞き取り	８５．２	８６．７	８５．７	－　１．０
文学的文章	５９．９	５９．９	８６．７	＋２６．８
説明的文章	６７．６	７５．２	７６．０	＋　０．８
記述・推敲	５８．７	６４．７	８０．７	＋１６．０
文法・語句	７１．３	６６．１	７９．４	＋１３．３
漢　　字	８３．５	７９．０	８３．６	＋　４．６

○　「聞き取り」と「漢字」については，共に８割を越えており，１８年度と同様に高い通過率となった。
○　昨年度低い通過率であった「文学的文章」については，今年度２６．８ポイント高い結果となり，最も低い通過率であった「記述・推敲」も，今年度１６ポイント増と改善の傾向がみられる。
○　今回，７割に満たない領域はなく大きな改善が見られるが，文法にかかわる基本的な知識の定着については引き続き細やかな指導が求められる。

(3) 観点

	平均通過率（％）			対前年度比
	平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	
話す・聞くこと	８５．０	８６．７	８５．７	－　１．０
書くこと	５８．５	６４．７	８０．７	＋１６．０
読むこと	６３．２	６７．５	８２．４	＋１４．９
言語事項	８０．７	７４．０	８２．９	＋　８．９

○　「書くこと」の通過率が最も高い。これは，平成１８年度まで定着を図るための類似問題に適応できるようになっているものと考えられ，８０％を超えたことから，基礎・基本が確実に定着しつつあると言える。
○　全体的に通過率が向上した中で，「話すこと・聞くこと」の通過率のみ平成１８年度からのマイナス結果となったが，通過率は８５％を越えており，基礎基本は定着していると考える。

2　通過率が低い問題

①［2］五　文学的文章を読んで，主人公の人物像を適当な指定字数で表す問題
　・　口数は少ないが，（やさしい）人物　（６８．６％）

②［4］一　ひらがなを漢字に直す問題
　・こつこつと<u>ちょきん</u>する（貯金）　（５１．４％）

③［4］三　品詞・活用の種類・活用形の異なるものを選ぶ問題
　・（品詞）・・・・・形容詞（<u>赤い屋根</u>）　（５３．０％）
　・（活用の種類）・・五段活用（<u>切る瞬間</u>）　（５４．０％）
　・（活用形）・・・・仮定形（<u>打てば</u>）　（６４．３％）

3　特に定着を図りたい問題

①［3］三　文中の図がどのような内容を示すものかを選ぶ問題
（H19　８１．０％）

②［5］四　グラフを見て分かることや考えたことを，条件に従って書く問題
（H18　条件①　７２．２％　→　H19　８５．４％）
（H18　条件②　６１．３％　→　H19　８１．５％）
（H18　条件③　７１．４％　→　H19　７９．３％）

【通過率が低い問題①】

2五　文学的文章を読んで，主人公の人物像を適当な指定字数で表す問題
・口数は少ないが，（やさしい）人物　　（通過率６８．６％）

2　次の文章を読んで、あとの各問に答えなさい。

> 恭太の家族が長年飼っていた犬のフックが死んでしまった。父晋太郎や母敦子も心配して見守る中、祖父福造はフックを庭に埋葬しようとしている。

福造が、庭の物置からスコップを取り出し、金木犀の巨木の下を掘り始めたのは夜中の三時であった。

今夜はフックのお通夜だと言って、朝まで起きていると言い張る祀代美やめぐみの子供たちに寝るように促し、それぞれが後ろ髪を引かれるような面持ちで部屋に入ってしまったのを見届けてから、福造はフックを埋葬するための深い穴を掘り出したのだった。

手伝おうとする敦子や晋太郎や恭太に、福造はひと言、

「来るな。」

と言った。そして庭に出ていった。

敦子は、穏っていたシーツを取り、もう一度、フックの顔に自分のほおを押し当て、晋太郎と恭太にフックの遺体を持ち上げてもらいながら、白いシーツでフックを包んだ。

スコップが庭の土をうがつ音は規則正しかった。福造に、深い穴を一人で掘らせたら、体にこたえるだろう。敦子も晋太郎も同じ意見だったので、二人は共々に庭に出て、

「おじいちゃん、後で体に障るから。」

と声をかけたが、福造は何も答え返さず、振り向きもしないまま、土を掘り続けた。

晋太郎はそう言って、恭太に、もう寝るように促し、居間に戻ると、ビールを飲み始めた。福造は、手を洗い、そのまま自分の部屋へ消えた。

「おれは、もう生涯、犬を飼うのはやめるぞ。」

と晋太郎は言った。敦子は、次第に強くなる雨の音を聞いていた。

（宮本輝「フックの死―彗星物語」による）

雨が降ってきた時、敦子はもう一度、福造に声をかけた。けれども、福造は無言だった。

やがて、福造は三人を呼んだ。

「フックを抱いてきてくれ。」

晋太郎と恭太が、白いシーツでくるまれたフックを持ち上げ、庭に出て、金木犀の巨木の下（運んだ。

福造の顔をぬらしているものが、汗なのか雨の滴なのか分からなくなっていた。

掘った穴の底にフックを降ろし、福造は（　）その上に土をかぶせた。かぶせ終わって、盛り上がっている土を手でたたき、福造はやっと口を開いた。

「長いつき合いやったな……。なんか、三十年も四十年も一緒に暮らしていたような気がするわ。」

それから、少し白みはじめた空を見上げ、

「ええ雨や。」

と言って、居間に戻っていった。

掘り返した土のにおいが、雨によって、いっそう濃くなっていた。

「この家にフックがきた時は、お父さんのてのひらに載るほどやったねェ。」

と敦子は、盛り上がっている土に雨がしみ込んでいくのを見つめて言った。

「空を飛べるのと違うかと思うくらい、耳ばかり大きかったな。」

五　この文章中の「福造」の人物像を次のようにまとめた。（　　）にあてはまる言葉を五字以内で書け。

> 口数は少ないが、（　　）人物。

誤答傾向の分析

○（　　）にあてはまる言葉を５字以内で，という設問に誤答の前に無回答も見られた。同様な出題パターンに慣れていないことが考えられる。また，誤答例としは「思いやりの」「やさしい人」等，意味は理解しているものの，（　　）に入れた場合に文の成立しないものが見られた。

改善策

○　主人公の人物像を読み取るためには，感覚で答えたり，一部の言葉のみにとらわれたりしないように，多くの文章に触れさせる中で，次のような読み取りの基本的な視点を確実に学び方として押さえたい。

・登場人物の言葉から　・・・主人公が発した言葉から心情を読み取る。
（例）「長いつき合いやったな・・・。」→短いつぶやきに込められた優しさ。

・登場人物の表情・態度・様子から　・・・描写することで内面を表現する。
（例）「汗なのか雨の滴なのか」→一心不乱にフックのことを考えている情景。

・登場人物の行動から　・・・行動を描写することで心理状態を描く。
（例）夜中の三時→主人公がどうしてもフックを埋葬してあげたいという思い。

・情景描写から　・・・天気や色といったもので登場人物の心を表す。
（例）少し白み始めた空→主人公の安心，穏やかさを予感

【通過率が低い問題②③】

4一 ひらがなを漢字に直す問題

・こつこつとちょきんする（貯金）
（通過率５１．４％）
（※中学校1年：通過率４７．２％）

4三 品詞・活用の種類・活用形の異なるものを選ぶ問題

品詞：形容詞（赤い屋根）（通過率５３．０％）
活用の種類：五段活用（切る瞬間）（通過率５４．０％）
活用形：仮定形（打てば）（通過率６４．３％）

三　次の1～3の各文――線部の中に、品詞・活用の種類・活用形の異なるものが一つずつある。それぞれの記号を書け。

1　〈品詞〉
ア　さわやかな風が空けた窓から入ってくる。
イ　その山で見た虹はとてもきれいだった。
ウ　右に曲がった先にある赤い屋根が目印です。
エ　ていねいにみがくと器は輝きを取り戻した。

2　〈活用の種類〉
ア　彼は黒く塗りつぶされた紙を見つめた。
イ　ゴールテープを切る瞬間をとらえた写真。
ウ　投げられたボールは、見つからなかった。
エ　時間は急がずに、ゆっくりと流れます。

3　〈活用形〉
ア　名前をボールペンで書く人はいませんか。
イ　丁寧にフリースローを打てば確率は上がる。
ウ　バイオ燃料で走る車が近年増えてきている。
エ　空から降る氷の固まりをヒョウと言います。

一　次の各文の――線部の漢字はひらがなに、ひらがなは漢字に直して書け。

8　こつこつとちょきんする。

誤答傾向の分析

【漢字の問題】
○　誤答は「貯」を「預」「貝＋守」「頂」「財」と曖昧に答えているものがほとんどであった。これは今回同問題を出題した中学校１年とほぼ同じ傾向であり，確実な定着が図られていないことが分かる。

【慣用句の問題】
○　誤答は１が「イ」，２が「ア」，３が「エ」としたものが多かった。いずれも通過率は５割から６割であり，特に形容詞と形容動詞，五段活用と下一段活用，仮定形と連体形の区別が十分についていないことが分かる。

改善策

○　漢字「貯」は小学校第４学年の配当漢字である。まずは，小中連携により，この段階で定着させたい。さらに第５学年配当の「預」，第６学年配当の「頂」との混同が見られることから，「貯金」「預金」「頂点」等を比較して書かせる等して，意味も含めた使い分けを指導したい。

○　「話す・聞く」「書く」「読む」それぞれの活動と文法学習との関連を図り，実際の生活経験から実例を求め，それを手がかりとして正しい基準を与え，文法の規則を日常の言語生活の場面に関係付けて習得させたい。

言葉の決まりは，日常生活の中でも自然に学習されるが，生徒が決まりを知りはっきりした計画に基づいて言語活動を行うことで学習はいっそう効果を発揮する。例えば，各学年全単元に一箇所ずつ「文法を考える」場を位置付け，身近な言語生活や既習の「読む」教材の中から具体的な言語事例を取り上げて，言葉の細部に目を向けさせるようにしていきたい。

【特に定着を図りたい問題①】

3 三 文中の図がどのような内容を示すものかを選ぶ問題

（H19　81．0％）

3　次の文章を読んで、あとの各問に答えなさい。（(1)～(6)は段落を表す。）

(1)　浮世絵とは何かという問いから始めよう。「浮世」の語源は「憂き世」であって、苦しみや悩みの多い現実を意味するものだった。それをあえてはね返そうという人々のエネルギーが、「憂き」を陽気な意味合いをもつ「浮き」に変えたのである。この発想には、苦悩や貧しさがなんだ、もっと積極的に現実を楽しもうじゃないかという、江戸の人々の意気込みが感じられる。これでわかるように、浮世絵とは、その当時の江戸の人々にとって、ありのままの暮らしを積極的に描いている作品を意味していたのである。

(2)　今だってそうだと思う人は大勢いよう。絵は写生が基本である。想像で描く作品のほうが少ない。［ア］、それは、浮世絵が普及してからあたりまえとなったことで、三百年も昔の日本ではむしろ逆だった。絵師のほとんどは中国の山水画を中心に掘え、仏画や肖像画を描いていた。そして、そのような絵は、寺社や大名家、あるいは大金持ちにしか所有できないものだった。

図1「大首美人図」（江戸時代）写真

(3)　ところが、そこに版画という技術が開発された、版画のいちばん大きな特徴は、大量生産ができるところにある。［イ］、絵を制作する費用が大はばに下がるということだ。絵に対して接点を抱いていた人々の夢が、版画の出現によって果たされることとなった。といっても、庶民の関心は中国の風景画や仏画に向かっていない。もっと華やかで、しかも、自分たちの生活に密着した作品が欲しい。その欲求が浮世絵を誕生させたのだ。

(4)　以来、浮世絵は飛躍的な発展を遂げた。才能のある絵師が輩出し、画題も歌舞伎役者や店の看板娘などのプロマイドから、武者絵やおばけ絵、風刺画、すもう絵、風景画と、どんどん拡大していった。技術も向上し、初めは墨一色に手で彩色していたのに、たちまちカラー印刷まで可能となった。三百年近くも前に、大量印刷のカラー版を庶民が手軽に手に入れられたのは、日本だけである。その素晴は、長崎の出島を経由して外国にまで伝わった。だいぶ後のことになるのだが、歌麿や北斎、広重、写楽の名は、日本を代表する画家として世界に知られるまでに至った。ゴッホやマネ、モネなど印象派とよばれる画家たちが浮世絵に影響を受けたという事実も、浮世絵の芸術としての価値を高めることとなった。

(5)　今や浮世絵は、日本を代表する芸術として揺るぎない評価を与えられている。確かに歌麿や北斎の作品を前にすると、芸術的感動に襲われることが多い。その感動が、わたしを浮世絵の研究に進ませる原動力となった。けれど、さらに多くの浮世絵を眺めているうちに、芸術という観点からは、どうしても外れる作品があまりにも多くあることが気になり始めた。多いどころではない。大半がとても芸術とはよべないものなのだ。これらは駄作なのだろうか。それともほかに理由のあることなのだろうか。

(6)　浮世絵はすべて芸術品だという見方に根本的な間違いがあったのではないかと、わたしは考え始めた。浮世絵の中心をなしているのは、評判の美人や歌舞伎役者たちのプロマイドであるのだが、それにとって、最も大事なことはなんだろう。似ているという一点に絞られる。どんなに構図や色使いが優れていても、当人に似ていなければファンは買ってくれない。ここで思い出してほしいのは、映画の看板絵や漫画の似顔絵だ。あれは芸術だろうか。なかには芸術に迫る作品もあろうが、多くの人は芸術とはみなしていない。まさに浮世絵はそれだったのである。歌麿や北斎の一部の作品は、それから生まれて芸術の領域にまで達した稀有な存在なのだ。浮世絵の評価基準から芸術性という観点を取り払う必要がある。そう考えて、わたしは浮世絵を一から見直すことにした。すると、浮世絵は芸術以上におもしろい面を見せ始めたのである。

（高橋克彦「江戸の人々と浮世絵」より）

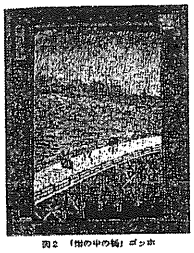


図2『雨の中の橋』ゴッホ

三　図2『「雨の中の橋」ゴッホ』は、本文中のどのような内容を説明するために挿入されているか。**最も適当なもの**を次から一つ選び、その番号を書け。

1　浮世絵は、大量生産することで制作する費用が下がったこと。

2　浮世絵には、芸術という観点から外れる作品が多くあること。

3　浮世絵が、世界的に有名な画家たちにまで影響を与えたこと。

4　浮世絵は、中国の風景画や仏画に影響を受けて発展したこと。

出題のねらい

○　「読むこと」の領域に関する問題として，浮世絵の芸術性に目を向けた文章から出題した。事柄を正確に読み取ったり，論の展開を押さえながら要旨をとらえたりする基礎的な問題の中で，文字だけでなく図「雨の中の橋」（ゴッホ）を用いて内容説明の理由を問う新しいスタイルの問題である。

学習の重点

○　文章だけでなく，「図表の資料も文章の一部として読む」意識をさらに高めたい。読むことについては，読むためのテキストについては，新聞や雑誌記事なども含め，説明的・論説的な文章をはじめとした幅広い範疇の読み物を対象とすることが求められる。また，学習用としての教科書教材を基本としながらも，整えられたテキストや同形式のテキストのみを取り上げるのではなく，パンフレットや図表なども含めた多様な資料の教材化を積極的に図りたい。

○　さらに，いろいろな図を読む能力や図を解釈する能力は，国語科だけでなく学校教育全体，さらには日常生活を送る上での重要な能力の一つであるため，まずは次の例のように他教科等と連携した指導が大切である。

社会・・・江戸幕府滅亡の過程を表した４枚の資料の要点を説明する。
数学・・・インターネット接続料金のプラン表を読み，自分の契約理由を書く。
体育・・・「体ほぐしの体操図」をもとに，その具体的な動きを解説する。

【特に定着を図りたい問題（中学校第２学年）②】

5 四 グラフを見て分かることや考えたことを，条件に従って書く問題

（H18　条件①　７２．２％　→　H19　８５．４％）
（H18　条件②　６１．３％　→　H19　８１．５％）
（H18　条件③　７１．４％　→　H19　７９．３％）

四　下のグラフは手紙を書くとき、手書きをすべきかどうかの意識について調査したものである。これを見て分かることや考えたことを、次の①～③の条件に従って二段落で書け。

【条件】

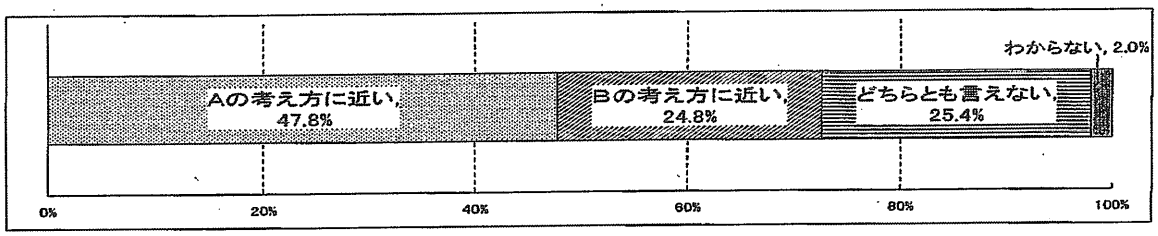
① 第一段落に、グラフから分かることを書くこと。

② 第二段落に、手書きで手紙を書くことに対するあなたの意見を、理由を明らかにして書くこと。

③ 原稿用紙の使い方に気をつけて、六行以上九行以内で書くこと。

質問

A 今後もなるべく手書きで手紙を書くようにすべきである
B 今後は手紙も手書きにこだわらないようにすべきである



平成16年度「国語に関する世論調査」（文化庁）による

出題のねらい

○　「書くこと」の領域に関する問題として，手紙を手書きにすることに関する意識をグラフ化したものを用い，自分自身の日常生活について気付いたこと，考えたことを文章に表すことで書く力をみた。読解力向上を意識して，昨年度と同様なグラフ等を用いた出題によるものである。

学習の重点

○　文章や資料から「情報を取り出す」だけではなく，書かれた情報を自らの知識や経験に位置づけて「解釈」「熟考・評価」「論述」するパターンの指導が定着しつつある。また，文章や資料を単に読んだり書いたりするだけではなく，それを利用して再構成したり自分の意見を述べたりする必要性も理解されつつある。

そこで，今後は「何のために文章や資料を読んだり書いたりするのか」「読むこと・書くことによって何を明らかにするのか」という，目的を明確にした指導が重要であり，次の事項を再確認したさらなる定着を図りたい。また，内容的な指導だけでなく，最終的な原稿用紙の書き方については，具体的な個別指導により形式的な誤答に結び付かないように習熟させる必要がある。

① 文章や資料を理解・評価しながら「読む」練習の徹底
② 文章や資料に基づいて自分の考えを「書く」場の継続的な設定
③ 様々な文章や資料を読む機会や，自分の意見を述べたり書いたりする機会充実（「読書活動」を重視した学習）